

事業報告書

団体名 NPO法人 ほっとハウス

事業名	知的障がい者の防災準備事業	
事業の 実施内容	時期	平成31年4月18日～令和2年3月26日
	場所	加茂名コミュニティセンター大会議室等
	実施内容	<p>今年度は知的障がい者の防災準備事業の2年目として、「自助・共助・公助」の「共助」をテーマとして活動した。</p> <p>災害時には家族やほっとハウスのメンバー以外に、面識のない周囲の人々の助けが必要になる時もあると予想される。しかし、知的障がい者は慣れない状況や面識のない人に、急に対応することが難しい。そのような時に、周囲の人々に助けてもらい易くするには、普段からどのような準備をしておくべきかを検討した。</p> <p>①ワークショップの開催 ほっとハウスのメンバーや保護者・ボランティアの方などが参加し、ワークショップを実施した。障がい児教育の専門家や行政の防災担当者をゲストに招き、防災について楽しく学んだ。また、保護者から専門家の方に、「防災について障がいを持つ子ども達にどのように教えたらいいか」などについて質疑応答を行った。</p> <p>その後、昨年度作成したコミュニケーションカード（＝して欲しいことを記してあるカード）を使って、災害時に面識のない人に助けを求める練習を行った。</p> <p>②防災訓練に参加 佐古自主防災会主催の避難訓練が佐古コミュニティセンターで実施され、ほっとハウスのメンバーが面識のない周囲の被災者に慣れるための訓練として参加した。</p> <p>③防災ビブスの作成 知的障がい者であることは、周囲の人から見て、外見上判断することは難しい。災害時に、知的障がい者であることを示したビブスを着用すれば、配慮を得られやすくなると思われる。</p> <p>ヘルプマークを縫い付けたオリジナルのビブスを作成し、知的障がいがあることを示す言葉を考えて表示することになった。</p> <p>④アンケートの実施 八万地区防災訓練の参加者に、防災ビブスに表示する言葉についてアンケートを実施した。</p> <p>⑤ミニワークショップの開催 コロナウイルス感染拡大防止のため、50人規模のワークショップの開催を中止し、少人数で集まってこの2年間の振り返りを行った。改めて、目的や方向性、一緒に活動したい人はどんな人かなど、来年の活動に向けて、考えを整理することができた。</p>

	効 果	<p>ワークショップには30名以上が参加しており、知的障がい者の家族や地域の人々の関心が高いことが分かった。</p> <p>参加者からは、「防災」についてほっとハウスのメンバーがだんだん理解しつつあるように思われるとの意見があり、2年間の活動から経験を積むことができている。</p>
	役 割 分 担	<p>団体：講師手配、会場設営、ワークショップ運営、防災ビブス作成 危機管理課：会場の手配、ワークショップの講師及び参加、広報、アンケート作成等の助言</p>
	工 夫 し た 点	<p>知的障がいのある人は、慣れない状況や事柄に急に対応することが難しいと保護者の方から意見があり、障がい児教育の専門家から防災について分かりやすく講義してもらったり、コミュニケーションカードの実践的な使い方を経験できるようにした。</p> <p>また、防災ビブスを作成するにあたり、周囲の人に助けをもらい易くするための言葉を、地域の避難訓練に参加している人達にアンケートを取り、客観的な意見を取り入れるようにした。</p>
今 後 の 事 業 展 開	<p>3年目は「公助」をテーマに、1年目2年目の総まとめを行う。</p> <p>知的障がい者の子をもつ保護者の、災害に対する不安を払拭するための防災ガイドブックを作成する。また、ガイドブックを地域や他の障がい者施設に紹介するなどして、成果を広く共有していきたい。</p>	

《ワークショップの様子》



《コミュニケーションカードの練習》

